



ニッポン
ドクター和の

臨終図巻



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

堂坂ヨシ子さん。この名前にピンとくる人は少ないはず。

でも、「五木の子守歌」ならば、ある世代以上の人は誰でも1度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。

堂坂さんは、「五木の子守歌」の歌い手として、熊本県では名の知れた方でした。8月2日、熊本県相良村の介護施設で死去との訃報を目にしました。享年102。死因は老衰との発表です。

「五木の子守歌」は、熊本県五木村に伝わる子守歌です。お盆の季節にびったりの歌なので、今日は、堂坂さんとともにこの子守歌について紹介しようと思います。

というのも、「歌い手」をなくしてしまった歌は、その人とともに臨終を迎えてしまうので

⑩ 「五木の子守歌」歌手 堂坂ヨシ子



「おどま盆切り盆切り 盆から先きやおらんと 盆が早よ来るりゃ 早よもどる」で始まる、国民的に知られたメロディは、実は、本家本元の「五木の子守歌」とは違うのだそうである。

「おどま盆切り盆切り 盆から先きやおらんと 盆が早よ来るりゃ 早よもどる」で始まる、国民的に知られたメロディは、実は、本家本元の「五木の子守歌」とは違うのだそうである。

す。これは、戦後に作曲家の古関裕而氏が作ったもので、1953年に照菊さんという民謡歌手がレコードにして大ヒット、お座敷唄として人気を呼びました。

一方、堂坂さんが歌う本家は、「正調 五木の子守歌」と呼ばれ、五木村のホームページでも聞くことができます。

私も聴いてみましたが、それほど悲しい子守歌を聴いたことがありません。

貧しかった時代、口減らしのため、小作人の家に生まれた女の子は10歳になるかならずで、

地に伝承され続けている歌なのです。歌詞の中には、こんなフレーズがあります。
「おどんが打っ死んたら 往還(みち) ばちや埋(い) けろ 通るひと毎(ご) ち 花あぐる」

私が死んでも、誰も墓参りなどしてくれないだろう。それならば人通りがある道端に埋葬してもらったほうが、誰かが花でもあけてくれるだろう—という意味です。

10代の娘が、「私が死んでも誰も悼んではくれない」と嘆いているのです。しかし、それに比べて今は幸せだね、とここに書くのもちょっと違う気がしています。

やるせない虐待のニュースや、貧困家庭や貧困女子という言葉や、言葉をネットを目にするたび、この詞の世界が遠い昔の出来事と思えなくなっているのは私だけでしょうか。堂坂さんの魂の入った「五木の子守歌」。どうか、死なないで。

歌詞に込めた魂は不滅です